

# オーゾーフラットの長い影

ある日、タスマニアのアーサーズレイクでブラウントラウト釣りのガイドをしているブレット・ウルフから、休暇で訪れたオーストラリアの西海岸でボーンフィッシュを釣ったとのメールが届いた。美しいターコイズブルーのフラットで、ブレット自身が巨大なボーンフィッシュを持つ写真が添付されていた。

夷谷元宏 (東京都中央区ノトラウト&キング) = 文・写真  
Text & Photographs by Motohiro Ebisudani



エクスマウスはオーストラリア西海岸、パースから北に1200kmに位置する。もともとは軍事利用のために町がつくられ、現在ではパースからの越冬リゾート地として人気。パースが真冬にあたる8月が最も観光客で賑わう。マリンスポーツが盛んでボートを牽引している車も多い。町には小さいがショッピングモールがあり、スーパーマーケットにレストラン、土産物屋と便利に過ごすことができる。釣具店もあり品揃えも豊富

## エクスマウスのボーンフィッシュ

エクスマウス(Exmouth)。初めて聞く名前だ。町の名前なのか、それともその釣り場のポイントを示しているのだろうか。それにしても透明度の高いきれいな水色の海だ。オーストラリア初のボーンフィッシュフラット誕生ということになるかもしれない、そのときは漠然と思った。

翌年ブレットは、タスマニアのトラウトフィッシングがオフシーズンとなる4月から10月の間に、そこでボーンフィッシュのガイドをはじめた。そしてとうとう所有していたロτζジを売り、エクスマウスに移住してフルタイムのガイドとなった。以降、彼からはボーンフィッシュだけでなく、ゴールデントレバリーやバーミット、クイーンフィッシュなど、非常に魅力的な海のフライフィッシングには最高のターゲットたち、それも結構よいサイズばかりを抱えている写真が度々送られてくるようになった。

羨ましい写真を次々と見せられ、段々とその場所に惹かれるようになってきた。インターネットで「エクスマウス」を検索してみる。オーストラリアの西海岸、パースから北に約1200kmの小さな町の名前で、スキューバダイビングでは結構有名らしい。その透明な海で見るサンゴ礁や、頻りに現われるジンベイザメとの遭遇がウリとのことだ。釣り目的で訪れる人も多いとのこと。しかしフライ

フィッシングに関しての情報は見つけることができなかった。果たしてそこにパラダイスはあるのか、ソルトフライ新天地となるのだろうか。

ブレットは、タスマニアの釣り場をよく熟知していて、無口だが的確なアドバイスのおかげでグッドサイズのタスマニアアンブラウンをさまざまな方法でキャッチすることができた。当然彼には顧客がたくさん付いていて、シーズン中はロτζジの切り盛りとガイドングで忙しい日々を送っていた。しかし彼はそんなサクセスをきっぱりと手放してしまった。職業としてのフィッシングガイドというだけでなく、熱狂的なフライフィッシャーの彼にとって、エクスマウスのボーンフィッシュはタスマニアのブラウントラウトを凌ぐ魅力があったのだろうか。

考えているよりも行ってみたいほうが早いと、いてもたってもいられなくなり、ブレットとの再会を果たすために、また、西オーストラリアのボーンフィッシュとの初対面を果たすために、8月初旬に友人とエクスマウスに向かった。気温10℃、真冬のパースからスカイウエスト航空という聞き慣れないジェット機で海岸線沿いを北に飛んだ。機中では、見下ろすシャークベイの入り組んだ海と砂地のグラデーションの美しさに目を奪われた。やがて飛行コースは海岸線を離れ、突き出した半島の内湾を旋回して小さな空港に降りた。周りの景色は木がまばらで赤茶色の土がむき出しの殺風景な平地が広がっている。所々に人の



01.フライフィッシングでメインとなる釣り場は外洋側のニンガルーリーフ。アウターリーフまで浅場になっていて、岸際から沖に数100mは白砂のフラットが続いている。ニンガルーリーフは海洋公園となっていて、陸地側のケーブレング国立公園ともに自然保護が行き届いている。陸ではカンガルー、エミュー、オウムなどの鳥類、海ではジュゴン、ウミガメが多く見られる/02.1年中釣りにはできるが、気温が快適な4~6月、9~10月にフライフィッシング目的で訪れる人が多い。11月からは内湾にセイルフィッシュの群れが入る。12月から水温が上がるとパーミットの群れが頻繁に見られる/03.良型のボーンフィッシュだけでなく、オーストラリアで人気ターゲットであるゴールデンレバリーが浅いフラットでねらえる希少な場所でもある/04.魚はフライを見慣れていないため、パターンは単純なものでもよい。魚の泳ぐ層に早く到達できるダンベルアイの付いたもの有利

背丈ほどのアリ塚が立っていて、カンガルーやエミューが道路を横切る。まさにオーストラリアのアウトバックそのものである。ボーンフィッシュのイメージとはなかなか結び付かない。

朝、ボートを牽引して我々を迎えに来た。プレットに状況を聞いてみると、一昨日まではボーンフィッシュの群れがあちこちで見られたそう。昨日は強風のため海に出られなかったが、今日は海には出られるそう。不安一転、期待が膨らむ。昨日の強風が今日からの釣りどころな影響を与えるのだろうか、などと考えるわけもなく、ただ頭のなかでは美しいフラットで大きな魚の群れが泳ぎ回っていた。私たちはエクスマウスの町から北に半島を周り、外洋側のニンガルーリーフからボートを降ろした。そこにはあの写真に写っていた美しいターコイズブルーの海が。やっとボーンフィッシュのイメージできる海を見ることができた。ボートは岸沿いを南に走ってボーンフィッシュのフラットで止まる。プレットが魚探のスイッチを入れて驚いた。なんと水温が18℃しかないというのだ。こんなに水温が低くなったのは初めて、いままでも20℃を下回ったことはないとのこと。湖でトラウトをねらうような水温で熱帯の魚たちは現われるのだろうか、昨日の強風が影響しているのだろうか。こんな時に限ってと、期待一転、不安がよぎる。しかし、「この間まではよかったのに」は毎度のことだ、

めげないでいこう。

**ゴールデンレバリー**

エレクトリックモーターで流しながら注意深く水面や水中を見ていると、時折り水面近くにボラの群れが現われる。「結構ボラの群れの下にいるいろな魚種が付いているぞ」とプレットが教えてくれたので、ウオームアップも兼ねてそのボラたちに向かってキャストイングを始めただけ。フライが水面にボトンと落ちるたびに群れを散らすだけ。ボートの上にむなしさが漂う。しかし、いくつかの群れをやり過ぎしていると、ボトム付近にボラとは明らかに違う影が現われ、ボートの下を通過して行った。魚体はずんぐりと丸く黄色味がかったり、10尾以上の群れで泳いでいる。

むなしさ一転、あせりと大興奮。ドタバタになりながらも、遠ざかる群れにできるかぎりのロングキャストを試みた。しばらくフライが沈むのを待っていると、期待通り、ロッドにグッと重みが乗った。粘るタイプの長いフアイトで、ボートまで寄せるのに苦労した。寄せたあとでもなかなか頭を浮かせられずに、ボートを何周かしてやっとネットに収まったのは、ナイスサイズのゴールデンレバリー。それから何度かゴールデンレバリーの群れに出会うことができ、最大で20~30尾、うまくキャストイングが決まるとフライを面白いように食ってきた。

オーストラリアではフライフィッシングの第一級のターゲットとなつているゴールデンレバリーがこんなに多く、それも

ニンガルリーフではボーンフィッシュのほか、写真のゴールドトレバリー、パーミット、ジャイアントヘリング、フエダイ、スナッパー、ジャイアントトレバリーが釣れる。半島内湾ではクイーンフィッシュ、パーミット、パシフィックターボン、バラマンディ、オフショアではセイルフィッシュ、スパニッシュマツカレルなど魚種は非常に豊富。



エクスマウスに移住してフルタイムのフイッシングガイドとなったブレットのアドバイスは的確。状況に応じたベストのポイントで、エクスマウスのポテンシャルを感じさせてくれる。

浅いフラットでねらえる場所はずらしく、すばらしい釣りができたのだが、次はなんとか本命のオージーボーンとの初対面を果たしたい。何度かはそれらしき群れを追いかけた。白い砂底がかすかにグレーに曇っている一帯があり、それがボーンフィッシュの群れだということなのだが、魚体自体は見えない。そのグレイゾーンは移動が早くてなかなか射程距離に入らないし、底の色に溶け込んですぐに見失ってしまう。

時間が経つと風も幾分か収まり、水温は太陽に照らされて20℃を超えた。できるだけ水温の高い、水深のある場所をポートで流していくと、遠くに例のグレイゾーンが現われた。船首で構えていた友人がすかさずロングキャスト、と思ったらフォールスキャストしたラインが、だいたいなときに手から抜け、ユラユ

ラとポートの前に落ちてしまった。ヘビーウエイトのフライもその場に沈んでゆく。こんなときにミスキャストだなんて運が悪い、すぐに投げ直さなければ。そう思っていると突然ポートの真下に大きな魚影が数尾現われた。今度はそれが魚だと、ボーンフィッシュだとはっきり見て取れた。群れはこっちに向かって来ていたのだ。

リトリブする間もなくすぐにロッドがしなった。始めは勢いよくリールが逆転したが、水深があるためかある程度走ったところで止まってくれた。その後は素直にポートまで寄ってきた。ブレットが、「そんなにすぐ寄るはずはない、この低い水温のせいかもしれない」と疑ったが、その直後にラインを瞬間にしてバックキングまで引き出していった。その後は寄ったり遠ざかったりを繰り返したが、とうとうポートの真横に魚体が浮いた。それを見た全員で口を揃えて出た言葉は、「長いっ」だった。ボーンフィッシュを長いと表現したことはなかったが、無事ネットに収まったその魚体はジャスト80cmもあった。状況が悪いなかではこんな魚が1尾でもキャッチできれば大成功だ。なによりも1日中魚捜しやポート立てなどに苦勞していたブレットがいちばん喜んでくれた。

風が強く、ポートを出すのを断念せざるをえなかったが、あきらめていたところ昼過ぎになって風は弱まり、ブレットから、今から迎えに行くと言った。これが最後のチャンス、何としてもボーンフィッシュを釣りあげねば。

### タフコンディション

ポートを出す、やはり水温は低く、スタートしてから1時間経っても魚は現れない。めげずに捜し続けて2時間が経とうとした頃、例のグレイゾーンを見つけた。かなり早く移動しているようだが、これを逃すともうチャンスはない。あきらめずに群れを追いかけよう。と、突然、群れが向きを変え、キャストリング範囲に入って来た。これまで唯一の成功パターンだ。すかさずキャストをしようと、なんとか群れの前にフライは落ちたようだ。途端に、ロッドへ重みがかかった。左手でラインを引き、ロッドを立てると、一気にラインが引き出され、大岩をめぐって走り出す。このままでは巻かれると焦ったが、寸前のところで止まってきて、苦勞の1尾をキャッチすることができ、西オーストラリアのボーンフィッシュとの初対面をなんとかギリギリ果たすことができたわけだ。

滞在最終日は朝から風が止んでいた。この日、ブレットがほかのゲストをガイドしている間に、陸路からのアクセスでウェディングに挑戦しようということになった。ニンガルリー

よくない状況にもかかわらず出会うことができたジャスト80cmのボーンフィッシュ。よい条件のときに巡り合えば、このサイズ以上のもっと釣れるはず



最後の最後でヒットしてくれたオージーボーン。ジェットランを楽しませてもらった

フ海洋公園は自然が手厚く保護されていて、釣り禁止のサンクチュアリエリアが多い。その禁漁区に注意しながら何箇所か設けられている海へのアクセスに入ると、そこには遠浅の美しい海が広がっていた。ビーチから歩いて、またはウエディングしながら魚影を捜したが、浅場では低水温の影響が強いのか、目的のボーンフィッシュやゴールデントレバリーに出会うことはできなかった。

その夜、電話をしてその日の釣況を聞くと、1日中水温が20℃以上あってボーンフィッシュの群れを何度も見たという。すっかりいつものハマリパターン、「今日行っていたら……」といったものセリフ。その電話でプレットに別れを告げ、また再会の

約束をし、翌朝エクスマウスを越し、バスからシンガポールを経由して、蒸し暑い東京に戻ってきた。週末が明けてパソコンを立ち上げると、プレットから、私たちがエクスマウスを発売した日の写真が送られてきていた。私達の後のゲストが抱えていたのは、80cmを優に超える迫力の魚体であった。

熱狂的フライフィッシャーであるプレット・ウルフが開拓して誕生させた、オーストラリア初のボーンフィッシュフットは、まぎれもなく魅力にあふれ

た海であった。今回の釣行では滅多にない水温の低下によって状況はよくなかったのだが、その美しいターコイズブルーのフットと、その巨大なボーンフィッシュの存在を実際に確かめることができた。私たちは、ちょうどこの記事が皆さんの読まれている2009年のゴールデンウィークに、彼の地を再訪する手配を進めているので、続報をぜひ紹介させていただきたいと思う。最高のコンディションのなかで最高の釣りができることを望んで……。

- 宿泊：町には本格的なリゾートからモーター、オートキャンプ場からバックパッカーまで宿泊施設は豊富。どこの宿泊施設も冬は利用客で賑わっている。
- 気候：1年中雨の少ない乾燥気候。
- 平均気温：夏場(12月～3月) 最高37℃—最低20℃、冬場(7月～9月) 最高24℃—最低11℃
- アクセス：西オーストラリア最大の都市バスからスカイウエスト航空で約2時間。  
\*エクスマウス空港は軍事施設のため、写真撮影は禁止されている。
- 現地ガイド手配：旅の問い合わせ：トラウトアンドキング  
☎ 03-3544-5251 www.troutandking.com

## Tackle

- ロッド：#8～10 9フィート
- リール：バックラインが200m以上巻けるドラッグ性能のよいもの
- ライン：フローティング、インターミディエイト\*今回のように水温が下がり魚の付き場が深くなった場合のためにファーストシンキングラインもあとと便利。
- リーダー&ティベット：9～12フィート14～20lbナイロンまたはフロロカーボン+14～20lbナイロンまたはフロロカーボン
- フライ：#2～4クレイジーチャーリー、#2～4ボーンフィッシュバガー、#1～2クラウザーミノー